



Vol 174 「物価高で困るんですが…」 ファンド選びの際に押さえておきたいポイント

総務省が7月21日に発表した6月の消費者物価指数(全国、生鮮食品を除く総合)は、前年同期比で+3.3%の伸び率となりました。プラスは22カ月連続で、日銀が物価安定の目標とする2%を15カ月連続で上回りました。

ここ最近、ガソリン価格や電気代、食品や日用品など、私たちの生活に直結するモノの値上がりが目立つので、物価上昇を肌で感じる方も多いのではないのでしょうか。

消費者物価指数*の推移(前年同月比)
(2020年1月～2023年6月)



出所:総務省

(年/月)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

物価が上昇する局面では、同じ金額で購入できるモノやサービスの量が減ってしまいます。言い換えると、実質的にお金の価値が目減りすることになります。

預貯金の利息が、物価上昇に負けないくらい高ければよいのですが、残念ながら現在の利息では、それほど多くは期待できません。

そこで、物価上昇から資産を守る有効な手段の1つとして、「資産運用」があります。コールセンターには、資産運用を始めることをご検討中のお客様から、「どういったファンドを選べばよいのか?」といったお問い合わせをいただくことも少なくありません。



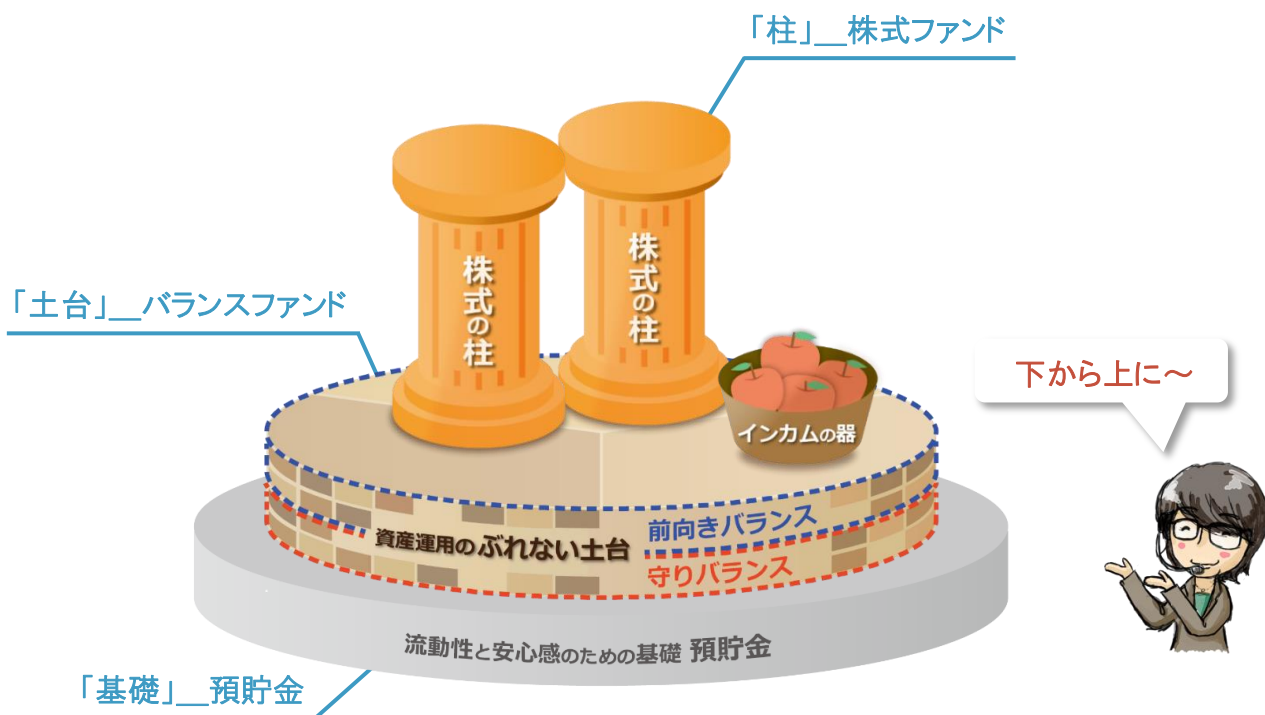
今回はファンド選びの際に押さえておいていただきたいポイントについてお伝えします。

大事なことは資産運用の“全体設計”からスタートすることです。是非、ファンド選びの参考にしてみてください。

資産運用の“全体設計”「基礎」、「土台」、「柱」

自分にピッタリな家を建てるために必要な一歩は、どんな家を建てたいのか考えることだと思います。例えば、家はコンクリートの「基礎」から作り、その上に建てたい家の広さや高さに応じた「土台」を組んでから「柱」を何本か立ち上げていくと思います。

ファンド選びも同じように、それぞれの目的に応じたものを“下から上に”考えるとよいかもしれません。



“下から上に”ファンド選びを考える

基礎__預貯金

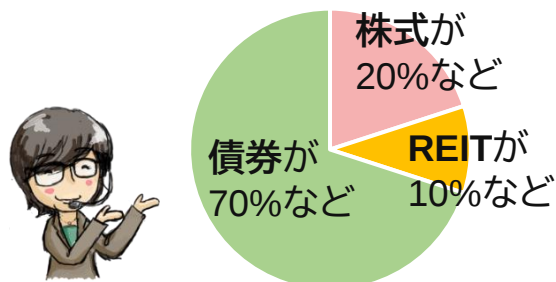
「基礎」である預貯金が十分でないなら、投資は時期尚早かもしれません。一方で基礎ばかり大きくても、家はいつまでも建ちません（資産の成長は期待しづらくなります）。

土台__バランスファンド

預貯金の基礎の上につくる「土台」には、債券や株式、REITなどを組み合わせた「バランスファンド」が相当します。バランスファンドは多種多様なため、債券が多めの「守りバランス」と少なめの「前向きバランス」の“2層構造”で考えるのも一法です。

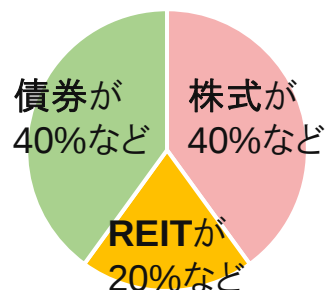
守りバランス

債券が60%以上配分されているような「守り重視」の配分



前向きバランス

株式とREITの合計が50%を超えるような「成長重視」の配分



柱_株式ファンド

家を高く大きくし、完成させるためには、やはり「株式の柱」が欠かせません。家の柱を切ったり外したりしないように、長期保有に耐えうるファンドを選びましょう。1つにしぼるのではなく、性質の違う“株式の柱”数本でも構いません。

コラム | Column 「インカムの器」とは？

絵にある「インカムの器」とは、毎月分配型などのようなファンドのこと。投信における分配は、ファンドを一部売却しているのと同じことなので、定期的な“現金創出機能”という理解が正解です。「土台」や「柱」とは明確に分けて保有し、受け取った現金は“しっかり使う”のが正しい活用法といえます。

最後に

基礎・土台・柱は人によってその配分はまちまちですが、資産運用の目的にあわせてご自身でアレンジできる自由度があります。どういったファンドを選ぶか、という視点からではなく、基礎・土台・柱のどこにどれくらいの資金を配分するかという全体像から考えてみるのも良いかもしれません。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント